

商品別見直し(輸出)

2019年12月2日(月)

品目	2018年度 (実績)		2019年度 (見込み)				2020年度 (見直し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	伸び率%				
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%							
総額	80,710	+1.9%	38,233	▲5.3%	38,439	▲4.7%	76,672	▲5.0%	↑	79,022	+3.1%	製造業を中心とした世界経済の減速、とりわけ米中貿易摩擦などによる先行き不透明感の強まりを受けた設備投資の抑制が、主に機械類(一般機械、電気機器、輸送用機器)の輸出を下押し。	ITサイクル(電子部品をはじめとしたIT関連財の需要の波)の下降に歯止めがかかることや、日本製の高付加価値品へのニーズの高まりが、機械類などの輸出を価格・数量の両面で押し上げる。
EX01 食料品	754	+14.2%	369	+0.3%	402	+4.0%	771	+2.2%	↑	779	+1.1%	海外における日本食需要促進のための政府プロモーションなどもあり日本酒、牛肉を中心に増加が続くも、漁獲量減少や農産物の品不足など、生産能力の制約が生じ伸びは鈍化。	供給制約が残り、伸びが一層鈍化。日本酒などは堅調に増加するも、果実及び野菜などはほぼ横ばい。
EX02 原料品	1,138	+1.6%	524	▲9.4%	531	▲5.1%	1,055	▲7.2%	↓	1,040	▲1.4%	鉄スクラップ:米中貿易摩擦、中国の輸入規制で鋼材相場は軟調。数量・価格ともに18年度からマイナス。生ゴム:生産拠点の海外移転は一服も、自動車業界の不調でタイヤ向けゴム需要が減少。価格は18年度比で横ばい。織物用繊維及びびくず:数量は微増、価格はやや低下。ただし、米中貿易摩擦の影響は限定的。	鉄スクラップ:貿易摩擦の影響が和らぐとしても、中国の輸入規制などが重しに。生ゴム:自動車業界の持ち直しで数量の減少幅は縮小。価格は横ばい。織物用繊維及びびくず:欧州向け・中国向けが増加。欧州向けは日EU・EPAが追い風に。
EX03 鉱物性燃料	1,361	+21.3%	691	+1.3%	578	▲14.8%	1,269	▲6.7%	↑	1,299	+2.4%	原油価格下落などの影響を受けて減少。	軽油の需要は、貨物輸送量の底堅さから下支えされる見直し。一方、灯油がエネルギー転換の進展等から産業用・民間用ともに需要の伸びが抑制される見直し。
EX04 化学製品	8,928	+6.9%	4,364	▲0.3%	4,631	+1.8%	8,995	+0.7%	↑	9,606	+6.8%	石油化学製品は、原料となるエチレン価格の下落により、価格が低下。加えて、中国経済の減速により、同国内の石油化学製品への需要が低迷。他方、精油・香料及び化粧品類と、医薬品は順調に伸びる。全体として、化学製品全体の輸出は緩やかな伸びにとどまる。	石油化学製品への世界的な需要は回復に向かうが、アジア地域でのエチレン生産能力の拡大に伴い、日本からの輸出は微増にとどまる見直し。他方、精油・香料及び化粧品類は中国向け、医薬品は米国向けや韓国向けを中心に、それぞれ好調に推移。
EX05 原料別製品	8,973	+1.8%	4,263	▲6.6%	4,024	▲8.7%	8,287	▲7.6%	→	8,245	▲0.5%	米中貿易摩擦や世界経済の減速を背景に、自動車やスマートフォンなどに使われる製品を中心に減少。	ITサイクルの調整一巡や自動車生産の持ち直しにより、価格・数量ともに概ね下げ止まり。ただし、米中貿易摩擦や米国・中国経済の伸び悩みもあり、明確な回復には至らず。
鉄鋼	3,338	+0.8%	1,586	▲7.1%	1,412	▲13.4%	2,998	▲10.2%	↓	2,954	▲1.5%	中国など一部地域で公共投資の関連需要があるものの、世界的に自動車や工作機械などの生産・販売が減少するため、数量は減少。また、価格が世界的な需要減から低下するため、金額は減少。	米中貿易摩擦や米国・中国経済の伸び悩みの影響を受け、数量は下げ止まり程度、価格もやや低下し、金額は小幅減に。
非鉄金属	1,459	+1.2%	684	▲10.2%	652	▲6.4%	1,336	▲8.4%	↑	1,394	+4.3%	自動車やスマートフォン向けの伸銅品や住宅・インフラ向けの電線を中心に海外需要は弱含み。また、製品価格のベースとなる銅・アルミ地金価格の低下も重なって、金額は上半期を中心に落ち込む。	自動車向けを中心に非鉄金属需要は持ち直すが、18年度の水準を回復するまで至らない。
織物用糸・繊維製品	728	+1.4%	352	▲2.9%	347	▲5.1%	698	▲4.0%	↑	709	+1.6%	世界景気の減速に伴い幅広い商材で減少。とりわけ、中国でのスマートフォン需要の落ち込みや衣料品メーカーの在庫調整が大きく影響。	電子部品に用いられる機能性の高い素材、民族衣装などに用いられる高品質の織物を中心に、減少に歯止め。
非金属鉱物製品	903	+3.2%	426	▲4.4%	450	▲1.7%	875	▲3.0%	→	872	▲0.3%	ガラス及び同製品:海外生産シフトに伴い、緩やかに減少。セメント:五輪関連を中心とする国内需要の盛り上がり引き続き抑制要因となるが、アジア向け・豪州向けは堅調に推移。真珠:アコヤガイ大量死による養殖真珠生産減などで大幅減少。ただし、中国での日本真珠人気などが続き価格は上昇。	ガラス及び同製品:自動車業界の持ち直しで自動車向けが復調。海外生産シフトも一服するため、増加に転じる。セメント:五輪効果一巡による国内需要の減少を受けて、アジア向け・豪州向けを中心に増勢が強まる。真珠:19年度の大減から緩やかに持ち直す。
ゴム製品	908	+2.4%	453	▲1.6%	436	▲2.4%	889	▲2.0%	↓	848	▲4.6%	減少に転じる。6割超を占めるタイヤなどで、世界景気の減速を背景とした価格下落が進むため。数量についても、北米向けと中東向けの増加が続くものの、欧州向けが減少し、全体では小幅増にとどまる。	減少ベースがやや強まる。米国などで工場の新規稼働が見込まれるなか、タイヤの世界需給はさらに緩む見直し。そのもとで、価格下落が続き、数量も採算性の低下により減少に転じる。
EX06 一般機械	16,314	+1.9%	7,454	▲9.2%	7,516	▲7.2%	14,970	▲8.2%	↑	15,504	+3.6%	新興国のインフラ整備や既存設備の更新需要は堅調ながら、世界経済の減速や米中貿易摩擦に伴う不透明感の継続が全体を下押し。	ITサイクルの調整一巡などから、半導体等製造装置を中心に減少に歯止め。
原動機	2,942	+5.3%	1,340	▲7.6%	1,380	▲7.5%	2,720	▲7.5%	↑	2,856	+5.0%	世界経済・貿易の減速を映じて減少。	エネルギー転換を背景とした効率の良い発電設備への更新需要などが拡大。
EX07 電気機器	13,936	+0.9%	6,594	▲7.3%	6,755	▲1.0%	13,349	▲4.2%	↑	13,810	+3.5%	世界経済の減速、サーバーおよびスマートフォンの需要減、米中貿易摩擦などを映じた設備投資の抑制が、幅広い製品での下押し要因に。	ITサイクルの調整一巡に伴う電子部品市況の改善、電子部品メーカーの設備投資回復を背景に、緩やかな増加に転じる。
半導体等電子部品	4,081	+1.0%	2,024	▲4.0%	1,974	+0.1%	3,998	▲2.0%	↑	4,078	+2.0%	サーバーやスマートフォン、産業機械の需要減が、中国はじめ各地域への部品輸出を下押し。ただし、DRAM・NANDメーカーの在庫調整圧力はピークアウトしてきており、価格も下半期に向けて下落一服。	小幅増に転じる。市況改善のほか、数量面でも、自動車向けの堅調な増加や、サーバー向けやスマートフォン向けの持ち直しを展望。
電気計測機器	1,734	+7.7%	802	▲9.2%	863	+1.4%	1,665	▲4.0%	↑	1,740	+4.5%	電子部品メーカーや機械メーカーによる設備投資抑制を主因に減少。	ITサイクルの調整が一巡するなか、電子部品メーカーの設備投資回復を主因に持ち直し。
EX08 輸送用機器	18,782	+1.8%	8,924	▲2.2%	8,951	▲7.3%	17,875	▲4.8%	↑	18,352	+2.7%	自動車・同部分品は主力の米国向け・中国向けを中心に低迷。船舶も、大型船デリバリーの一巡を主因に減少に転じる。	自動車・同部分品は主力の米国向けが引き続き減少も、中国向けの高級車・高機能部品が持ち直す。船舶は、中小型船のシェア上昇、価格競争の激化から2ケタ減に。
自動車	12,267	+1.5%	5,925	+0.4%	6,075	▲4.5%	12,000	▲2.2%	↑	12,240	+2.0%	主力の米国向けが景気低迷やガソリン価格高止まりなどにより頭打ち。	米国向けは引き続き低調ながら、中国向け・EU向けが主導し緩やかに回復へ。中国では、高級車市場で日本ブランドの人気が高まる方向。
自動車の部分品	3,938	+0.7%	1,772	▲11.5%	1,733	▲10.5%	3,505	▲11.0%	↑	3,680	+5.0%	2ケタ減に。これまでの成長をけん引してきた中国向けが落ち込み、米国向けとASEAN向けも低調。	米国向けが引き続き低調も、中国向け・ASEAN向けが持ち直す。性能向上を図る地場完成車メーカーが、日本製部品の調達を増やす動きが広がる方向。
船舶	1,430	+13.3%	722	+8.6%	610	▲20.3%	1,332	▲6.8%	↓↓	1,130	▲15.2%	3~5年の受注生産。19年前半までに大型船のデリバリーが一巡。価格面では、環境対応が下支え要因ながら、韓国メーカーによる廉売の影響を受けて厳しい競争に。そうした状況下、下半期に入り日本メーカーの受注残が減少し始めている。	減少ベースが加速。中小型船のシェア上昇、韓国メーカーの廉売継続を背景に、受注件数も船価も低調。
EX09 その他	10,523	▲3.3%	5,051	▲5.3%	5,051	▲2.7%	10,102	▲4.0%	↑	10,386	+2.8%	科学光学機器を中心に減少が続く。	科学光学機器や金の輸出が持ち直す。
科学光学機器	2,247	▲6.5%	1,059	▲7.9%	1,086	▲1.0%	2,145	▲4.5%	↑	2,238	+4.4%	欧米向けは底堅く推移するも、約6割を占めるアジア(中国、韓国、ASEAN)向けの落ち込みが続く。	スマートフォン需要の持ち直しにより、液晶関連やカメラ関連の部品を中心に緩やかに回復。

*2019年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。